

淀川水系流域委員会 様

いつも御苦勞様でございます。

私達は、伊賀の自然を愛して、活動している団体です。

川上ダムに関しての、貴会のお考えが発表される時が迫り注目しています。

去年 12 月 18 日は、議論を重ねておられた事伺いました。

そして、この 1 月 11 日には、更なる議論になることでしょう。

その会議の参考資料にさせていただきたく、ここに当会のあるいは私個人としての意見を送付します。

委員会の皆々様に届きますよう、お願いします。

伊賀の水と緑を考える会

事務局長 浜田 不二子

2005.1.7

伊賀の水と緑のたより

発行：伊賀の水と緑
〒518-0221 三重県伊賀市別府690
浜田方 ☎0595-52-1183
年会費 ¥1,000
郵便振替：00800-5-34338
(水と緑を考える会)

提 言 — 治水にダムは無用 —

今年も各地で、異常降雨による激甚な災害が発生しました。その原因を探ると多くの共通点が見いだされます。

1. 想定規模を超えた豪雨に対しては、ダムは無効どころか、大きな災害をもたらすものである。
2. これらの災害は、ダムに依存してきた体質が、河道整備を遅らせたことに起因することである。
3. 森林の荒廃が、保水力の低下をもたらし、併せて、流木による水害被害を拡大した。
4. これらの洪水被害で、構造において欠陥のある堤防が各地に存在し、それが破堤を引き起こし、甚大な被害をもたらした。

これらの事実を河川整備計画において、基本とすべきである。よって次のことを河川行政のあり方として提言する。

- 1) 森林整備を公共事業として、推進すること。
- 2) ダムを前提としない河道計画を立て、早急にそれを実現すること。
- 3) 堤防を総点検し、その問題箇所の強化工事を速やかに実施すること。
- 4) 膨大なダム建設予算を、河道整備、森林整備に置き換えること。
- 5) 住民主体で、游水地や氾濫地などの地域の特性に対応した洪水対策をとること。

水源開発問題全国連絡会 第11回総会参加者一同
小豆島『海と山』からの水害を考える全国集会参加者一同
2004年10月31日

国土交通省よ！

いま、早急に手がけてもらいたい事業は、
日本中のヒノキ山・杉山の手入れである。

国土を削って、目的のないダムを造ったり、利用が少ない所に立派な道路を通している場合ではない。

日本中に植林を推進させたのち、価値がなくなると一斉に放り出して今に至る森林組合はほとんど機能せず、陽の差さない山々が日本の至るところにある。それだけでなく根の浅い杉・ヒノキだけの山は災害に弱いと言われているのに、手入れをしていないとなるとより一層である。

今年のように、猛威をふるった台風や地震災害があると、これらのもともと弱っている山々が崩れる危険に拍車をかける。実際に、今回の台風でも植林ラインで崩落が起きている所があり、山の手入れを怠っていることが被害を大きくしているのではないと思われる。

このような災害が、次に、日本中のどこで起きても不思議はない。至る所で危険な箇所が名乗りをあげるに違いない。

日本の国土を守り、私たちの大切な人命や財産を守るためには、放ったらかしの人工林の手入れに着手する新たな公共事業を打ち出してもらいたいと、国交省に願う。

— / —

三重県知事

奈良県知事

西宮市市長

伊賀市市長

国交省近畿地方整備局

淀川水系流域委員会

2004年(平成16)11月10日

様

伊賀の水と緑を考える会 代表 森本 博
〒518-0226 青山郵便局私書箱2号
事務局 0595-52-1183

申し入れ書

秋涼の候、貴職におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は水道事業行政に格別のご理解とご協力賜り厚くお礼申し上げます。

さて、私達「伊賀の水と緑を考える会」は、川上ダム建設と利水、即ち水需要の精査・確認についての国交省近畿地方整備局の取り組みを注視しています。

私達の会は、ダム建設と自然環境、費用対効果、水道行政等に関心を持ち日々研鑽しています。特に水需要予測と人口予測は行政側と科学的データーを出し合い、話し合えば必ず皆様方と合意形成ができると信じています。

奈良県におかれましては2004年3月5日、柿本知事が議会で「川上ダムからの利水撤退」を表明されました。水需要の精査確認を将来予測に基づいて出された結論として歓迎しています。

西宮市におかれましては川上ダムにこだわらず費用対効果を整理して近く結論をお出しいただくと思っています。撤退費用、継続費用、工業用水の転用、周辺自治体との調整があるとも伺っています。私達を大きく励ましていることに水源地域の環境等配慮する必要があるとの見識を示されていることです。

三重県におかれましても水需要の精査をされ、川上ダムからの水利権40%削減の下方修正をされました。県の公共事業再評価委員会は伊賀に水不足があるなら長良川の水を持っていけばとの意見も出ていますが、私達は、伊賀には水不足は起きないと確信しています。川上ダム建設によって自然環境に重大な悪影響を与え、生態系を壊し、次世代に負の遺産を残してはならないというのが私達の結論です。

下記の項目について申し入れ致します。

1. 水需要の精査を早急に行い、データーを添えて国土交通省近畿地方整備局及び淀川水系流域委員会に提出して下さい。
1. 川上ダム建設は中止し、森林公園・親水公園・森林整備・山村地域の活性化策など「緑のダム構想」の実現に努力して下さい。

伊水総 第 50 号
平成16年12月14日

伊賀の水と緑を考える会
代 表 森 本 博 様

伊賀市長 今 岡 睦 本



公開質問状の回答について

2004年12月6日付けで、ご質問のありました6項目について、下記のとおり回答いたします。

記

1. 水価411円/m³は当初の水道整備計画で受水量48,500m³/日の水価です。
水需要見直しに係る用水供給事業の水価については、ダム負担金が定まらないことから未定ですが、専用施設費及びダム建設費のコスト縮減について関係機関に積極的に働きかけていきます。
2. 工場等の新たな立地計画について、水量不足を理由に抑制を行っています。
しかし、用水受水後において、この条件が解消されることから、新たな水需要型工場等の立地も可能になり、進出工場等についてはこれまでの交渉経緯等から可能性の高いものを算入しています。
工場用水量は平成20年で3,005m³/日、平成30年で9,346m³/日、6,341m³/日の増になっていますが、内訳として進出工場等需要量は4,556m³/日、既設工場の地下水からの転用量は1,785m³/日になります。
3. 水道水源には、水量の安定性、安全性、維持管理の容易さ等が必要です。
今回の水需要の見直しにあたっては、これらの観点から長期に渡る自己水源の再評価を実施しましたところ、豊水水利権による表流水の廃止や取水量の減少及び水質悪化による地下水の減少が、自己水源の削減の大きな理由です。
4. 水道水源には、水量の安定性、安全性、維持管理の容易さ等が必要です。
今回の水需要の見直しにあたっては、これらの観点から長期に渡る自己水源の再評価を実施しました。
なお、旧上野市の守田水源については、ダム完成までの豊水水利権として、河川管理者から許可を受けている暫定水利であり、川上ダムを水源とする用水供給事業完成後は、水利権は消滅することとなっています。
5. 水需要見直しに係る用水供給事業の水価については、ダム負担金が定まらないことから未定ですが、専用施設費及びダム建設費のコスト縮減について関係機関に積極的に働きかけていきます。
6. 平成15年度三重県公共事業評価委員会では伊賀用水供給事業の事業継続が了承され、平成21年4月、給水開始を目指して、三重県企業庁で用水供給事業を進めています。

	発行：伊賀の水と緑を考える会
	〒518-0221 三重県伊賀市御府690
	浜田方 ☎0595-52-1183
	年会費 ¥1,000
	郵便振替：00800-5-34338 （水と緑を考える会）

川上ダムはいりません

伊賀市 一会員

難しい数字やデーターは私には何も解りません。

唯、思うのです。山を削り、谷を埋め、沢山の生き物の生命を奪ってダムを作ったとて、得をするのは人間だけです。

人間だけの利益ばかり追い求めてきた結果、

地球はズタズタに傷付きました。

もう少し、質素な生活に戻りましょう。

自然に優しく接すれば、自然も再々牙をむくことはないでしょう。

水と緑は伊賀の誇りです。山にコンクリートはもう沢山です。

ダム建設の費用を堤防や河床の補修・森林の育成に当てる等、あるがままの自然の中で知恵を絞りましょう。

今、私達が歯止めをかけなければ後世に大きな負を残します。

私達が子孫に残せるのは近代的な文明よりもその土台となる自然との共生の心です。

川上ダムは、断じて入りません。

< 報告 > 12月12日水機構による

— 桐ヶ丘住民説明会 —

(当会はこの日に向けて「川上ダムはいりませんパートⅡ」のチラシを作り桐ヶ丘全戸に配布し参加を呼びかけました。)

冒頭で恒吉所長さんから『桐ヶ丘はダムと隣組だから、お互い信頼しましょう。』などと挨拶されて、‘ハイそうしましょう。’と無条件で応える住民があので会場に参加していたか、解りません。

事業進捗状況など、水機構からの型どおり、何ら進展のない説明に、わずか2時間のほとんどを費やそうとしていて、会場からブーイングが起きました。

前回はちょうど一年前。ほとんどの住民は知らないうちに秘かに開かれ終わっていた。それでも『住民説明会を行なった。』と、記載されていく現実。

今年は12月に入ってから回覧板でお知らせしているのを発見。よほど注意していないと見逃すシロモノ。桐ヶ丘を隣組だと本気で思うのなら一軒一軒にちゃんとお知らせを届けてもらいたいと思った。

参加者の多くは、当会発行のチラシを持参していて、以下の質問や意見を述べていました。

・『去年要求したこと(ダムの予定地と、桐ヶ丘の高低差を等高線で示せ。水道料金を具体的に示せ。)が、今回も、説明がないのはおかしい。』

・『ダム放流の際の微震動は、住民・住宅に影響が出る筈、心配だ。』

・『(湧き水の)止水をコンクリートで対応するのは安易すぎる。環境にも影を落とす。』

・『団地とダムが接近している例が他にあるのか。』

・『300m向こうにダム湖を抱える桐ヶ丘側の充分なボーリング調査を要求する。』

・『岩倉峽の疏通量は昔より増している。今後も堤防補強や河床掘削してゆく方が有効。』

・『森林の保水力を全国40カ所で調査して学説を唱えている人がいる。緑のダムの効果は大。』

・『活断層は無いと断言できますか。』

・『問題が起これたら私らの生活を補償してくれるならダムを造っていいですよ。』

・『オオタカ・サンショウウオなどの絶滅危惧種が発見されています。これらが発見されれば開発計画はストップするという、環境の取り決めの基本を守って下さい。』

次回は未定とのこと。みなさん!! 水機構の動きを注目しましょう

伊賀の水と緑を考える会 1月 例会まとめ

2005.1.6 17:00～21:30

伊賀市・青山公民館にて

1. 川上ダム建設計画に関して、自治体の動きについて

計画が打ち出されてから、30年もたって、急に進展した訳は、当時の青山町長松原氏が、議会にもかけずに単独で、建設省に乗りこみ、掛け合った経緯がある。その後の議会の動き、首長の言動には、ダムの目的よりも、ダム建設に伴なう、補助金制度や補助事業補償問題を重点にしていたと見受けられる。

科学的データにもとづいた議論や回答をして来たことがない。

はなはだ説得力に欠けるところである。

2. 淀川水系流域委員会の最終意見書について

- ・ 「住民合意」を重要視してもらいたい。
- ・ 治水専門家が少ない中で、議論しておられるのは不安。
- ・ 川上ダムの建設費は、850億円の予算だが、実際は倍増すると思われる。水価にこれではね返り、三重県水だけが担うことに耐えられるとお考えか、主婦感覚で議論をしてほしい。ダムを小型化しても、建設費に変化は出ないものと思う。
- ・ 河川局が、活断層についてのコメントが微妙に変化している。

「活断層はありません」⇒「活断層をさけて建設し、耐震装置の有るダムを建設します。」

つまり、近くを活断層があると認めている証拠だ。

3. 水資源公団主催の桐ヶ丘団地説明会でわかったこと

- ・ 「活断層調査は今のところ調査費がおりないため、できていないが、ダム建設すると、決まれば、予算が付くので、調査をします。」

これでは、まともな調査結果が公表されると期待持てません。30数年予算が付いて来たのに、住民に信頼される調査結果の1つも、示してもらえない公団の実態を如実現わしている。

- ・ オオサンショウお飼育報告開示について

「住民の方におみせする前に、提出しなければならない所がございますので……………」

ごまかし以外の何ものでもない。

4. 大滝ダム（活断層調査を行わずに建設して地すべりが発生し、予定額の数倍にもなる

総工費建設費で運用も危ぶいダム) の見学ツアーをする。

5. 「川上ダムはいりません」「子ども達の未来にダムはいりません」看板を掲げる計画について

以上

文責 浜田 不二子

淀川水系流域委員会 様

川上ダムは、私たちの地域になんの利益も、ありません。不利益だけは、あります。絶対に、造らないで下さい。

このお正月に、カナダの青年が来宅したので、川上ダム予定地を、案内しました。川上川と前深瀬川の流れをみて、「こんな小川にナゼ、ダムですか。考えられません」と驚いていました。

浜田 不二子